由利本荘市立由利中学校 校報　　「チーム由利中　心ひとつに」

根堀台だより

平成26年7月7日

第 31 号

校 訓「 進 歩（文 ）」「 健 康（武 ）」「 協 力（道 ）」

第１回市教委訪問

〇〇〇〇〇教育長さん

〇〇〇〇教育委員さん

熱心に取り組む姿

英語は表現活動を

７月４日（金）の午後、第１回由利本荘市教育委員学校訪問がありました。〇〇〇〇教育委員さん（元由利小校長）、〇〇〇〇〇教育長さん、〇〇〇〇学校教育課長さん、〇〇〇〇由利教育学習課長さん、〇〇〇指導主事の５名の皆さんがご来校下さいました。気温は午後から上昇気味でしたが、風もあって、爽やかな日和での学校訪問となりました。

５校時は、６学級の授業を参観して頂きましたが、どの学級も子どもたちの表情が明るく、学習意欲をもって学習活動に取り組む姿が見られたと高い評価を頂きました。

また、教師も授業の準備（教材研究）がよくされており、３つの「わ」が見られた授業が多かったという感想を頂きました。これは「わらいがある（意欲）」「わくわくする（意欲）」「わかる（理解）」授業ということで、教師の頑張りを評価頂いたことになります。

経営説明の際に、今年度「全国学力・学習状況調査」の自校採点分についてお話をしたのですが、例えば質問紙の「数学ができるようになりたい」という問いに対して、本校３年生は１００%の生徒が「できるようになりたい」と答えています。「分からないこと」「できないこと」でも諦めることなく、自己の向上を目指す姿勢が育ってきています。これが学習姿勢や学習意欲の向上につながり、着実な伸びの要因となっているといえるのです。〇〇〇教育長さんから「生徒のその思いに全力で応えてほしい」と激励の言葉を頂きました。

先週行われたＰＴＡの保護者の参加率が７割を超えていることについても触れましたが、教育長さんはその参加率の高さに驚き，改めて由利地域の本校に対する期待や思いの大きさを再認識したようです。そして、「今が由利の子どもたちを伸ばす絶好のチャンスと捉え、子どものどこを、どう伸ばしていくか明確にし、鍛えていってほしい。」とのべられました。

これまで学校全体で取り組んできたことが、生徒の中に形となって現れてきたことに大きな喜びを感じました。勿論、「言語活動」をどう鍛えていくか、「学習課題の工夫」など課題も山積みになっていますが、学校全体が「心　ひとつに」取り組みながら、子どもたちの成長につなげていきたいと願っています。

あいさつは由利の誇りです

朝の爽やかなあいさつ

〇〇さんも一緒に挨拶

生徒会・生活安全委員会と児童会の交流風景

７月７日（月）の朝、小中あいさつ運動の２日目が行われました。１日目とあいさつ運動のメンバーが変わり、新鮮な気持ちであいさつを交わしました。今回は情報教育講座の講師を務めた由利本荘警察署の〇〇係長さんも参加してくれました。

上級生を先頭に集団登校のグループ毎に登校してくる小学生に向かって会釈をし、元気な声であいさつをしました。最初は声だけで返していた小学生でしたが、次第に会釈も返してくれるようになりました。体も大きく、制服に身を包んだ由利小の先輩たちの姿はきっと小学生の目に大きく立派に映ったことだと思います。

最後に、「秋のあいさつ運動もよろしくお願いします。」と互いに約束しました。すばらしいあいさつは由利の誇りだと改めて感じた２日間でした。

子吉川フェア川柳コンクール

◎子吉川　おばこを写す　大シアター
〇〇〇〇

◎清らかな　その水由利を　うるおして
〇〇〇〇

７月は河川愛護月間です。一級河川である子吉川の流れる由利本荘市では、住民のより一層の河川利用を促すために、複数の河川愛護団体や地元自治体等と連携しながら、平成８年から毎年「子吉川フェア」を開催しています。その「子吉川フェア」の協賛行事として由利本荘市内の中学校を対象に行われている子吉川川柳コンクールも今回で9回目を迎えました。本校では、この川柳コンクールに1・2年生が全員出品しましたが、その中から〇〇〇〇さんと〇〇〇〇さんの2名が「入選」しました。おめでとうございます。

子吉川は大雨による洪水や夏の渇水など、私たちの生活に大きな影響を及ぼすことがありますが、豊かな実りを育む「故郷の川」です。江戸時代になると日本海の西廻り航路が開かれ、北前船の交易が盛んになると、亀田藩の石脇港、本荘藩の古雪港の２港は北前船の有力な寄港地として発展しました。子吉川は、この港に到着した物資を舟運によって由利の郡部に配送し、当時のこの地方の主産物である米、木材などを港まで運ぶ役割を果たし、由利地方に住む人々にとって物資輸送の大動脈となっていました。しかし、当時は洪水の度毎に川岸が侵食されて田地をせばめ、家屋敷等も危険にさらされていたため、滝沢郷の名主畑中喜右衛門が河川の改修を度々代官所に訴えたため、これを強訴として捕らえられ、農民煽動の罪として万治元年刑に処された事件は、郷土の歴史として畑中喜右衛門碑に刻まれています。子吉川とともにある私たちの生活と歴史について、学ぶ機会を是非もちたいものです。